

## 稠密 GPS 観測網による花折断層周辺の歪分布

Strain distribution around the Hanaori fault in Kinki district of Japan by dense gps network

# 大谷 文夫[1], 重富 國宏[1], 細 善信[2], 中村 佳重郎[3]

# Fumio Ohya[1], Kunihiro Shigetomi[2], Yoshinobu Hoso[3], Kajuro Nakamura[4]

[1] 京大・防災研・地震予知, [2] 京大・防災研・地震予知センター, [3] 京大・防災研

[1] RCEP, DPRI, Kyoto Univ, [2] RCEP, DPRI, Kyoto Univ, [3] RCEP, DPRI, Kyoto Univ., [4] DPRI, Kyoto Univ.

花折断層周辺で行っている GPS 観測の結果を報告する。この地域はひずみ速度場のコントラストが認められる淡路島 - 信濃川 (神戸 - 新潟) 構造帯に位置し、テクトニックな東西日本の境界という見方もされている。また、Hujita により提唱された地質構造「近畿トライアングル」北西縁の活断層において、他の断層が過去数世紀以内に前回の地震が認められているのに対して、縄文後期以来痕跡がない部分でもある。1997 年に稠密観測網を設置し、年 2 回のキャンペーン観測を実施してきた。一部地点では 1 周波機による連続観測も実施している。歪の時間・空間分布を求めることが目的のため、固定点は近傍に選んだ。年周変化を周囲を囲む GEONET 全点で調査の結果、比較的少ない 2 点を固定点、補点として解析している。歪分布は断層トレースでの不連続は顕著ではなく、トレースからかなりの距離で段階的に変化していることを示唆している。